



# ピッポ新聞

2010

11

No.253

## 子どもの本専門店 ピッポ

### ピッポ古書クラブ

〒424-0886

静岡市清水区草薙1-6-3

TEL &amp; FAX

054-345-5460

URL <http://www.pippo.co.jp>E-mail [itoh@pippo.co.jp](mailto:itoh@pippo.co.jp)

## ジヨギングで見つけた 秋を食べる

週1〜2回ジヨギングをしていますが、走るのは近くの山の中です。山といっても、丘陵のよなもので、その頂上は日本平という観光地です。幸い住んでいる側には、農道やハイキングコースがあるだけで、観光道路はありませんから普段は余り人がいません。出発地の県立大学や県立美術館、図書館のある広場にはおおぜいが遊んでいます。県立大学の葉草園まで登れば、下り口の平沢の寺の裏まで人に会うことはまれです。この人に出会うことが少ない山道がすきで、ここをジヨギングコースにしているのです。

この丘陵地一帯を地元では有度山（うづやま）と呼んでいます。中学生のころから、ずーとこの山であそびできましたから、どの辺りに山芋のツルがおおくあり、何処へ行けばアケビが採れ、クリが拾え、山グワの実やタラノメが摘めるかなどということをよく知っていますから、今もその時々でこれらを採取して楽しんでいきます。

このジヨギングコースで、ぼくはこの秋ちよつとうれしい発見をしたのです。ウスヒラタケという、一級のキノコをみつけたのです。ジヨギングコース上のコナラの倒木に出ていたのですが、この倒木は数年前から、山道の脇にころがっ

ていたもので、倒木は時間を経るごとに朽ちて表皮もむけてしまいました。たぶん、今の状態の倒木を見せられたとしても、ぼくにはそれがコナラだと判別することはできないでしょう。表皮がまだはつきりついている頃から見ていたので、コナラの倒木だとわかるのです。

10月最初の日曜日、ジヨギング中にその倒木にちっちゃなキノコが少し出ているのを見つけたのです。それがウスヒラタケであることはすぐ分かりました。なにしろ、一時期キノコ採りに夢中になって、井川や富士山の裾野へよく出かけていましたからね。

まさか、こんな身近な場所でウスヒラタケにお目にかかれるとは思っていませんでしたから、発見したときは、「ヤッター！」と一人叫んだ（もちろん心の中でね）のです。それから考えたのは、まだこのヒラタケは幼菌だからいま採ってしまうのは惜しいということでした。もつと大きくなったのを採ろうとおもったのです。

じつと我慢すること4日間。そろそろいいだろうと、木曜日に今度は竹籠とデジカメをもつてでかけました。この間、雨も降ったのでさぞやキノコも大きくなったことだろうと期待で胸をふくらませて倒木の所へいつてみました。なんと！そこにはウスヒラタケが無いのです。よく見れば倒木の下の方にわずかにその残滓が残っています。誰かに採られてしまったようです。「バカヤロウ！なんなんだ、これは！」怒ったところで、嘆いたところで採られてしまったウスヒラタケはすぐに生えてくるわけでもありません。

だが、あきらめきれないぼくは、ふと思いついたのです。確かこの倒木は二つに折れていたはずだ、もう片方が近くにあれば、もしれないと思いついたところ、15メートルほど先の反対側の斜面に転がっていたのです。しかも、見事にウスヒラタケがびっしりついていて、先程の怒りや嘆きはどこへやら、喜びがわいてきました。

そこで、まずはデジカメにこれを納めました。あとで、ひとに自慢するためにね。それからゆっくり、かつ、ていねいに採取を開始しました。

採ったウスヒラタケは持参の竹籠にいれていきます。よく見ると倒木の下の方にもまだ小さいキノコが出ています。さらに木の表面を白い菌糸が覆っていることもわかりました。またデジカメをとりだして、これを撮りました。

それに、もう1回は収穫できそうだし、なんだか心が豊かになったようです。

そこで、まだ他にも見つかるかもしれないと思いついて、近くをさがしてみると、さらに斜面を少しくだつたところに、今度は立ち枯れたコナラの木に、やはりウスヒラタケを見つけた。ほんの少しで、まだちっちゃかったけど。次回にはここでも収穫できそうです。楽しみ楽しみ。

他にもこちらは食菌でないが、サルノコシカケ科のキノコがびっしりついていて倒木もありました。いままでこの山をキノコ採りの対象にするなどとは思っていませんが、どうやら考えを改めなければなら

ないようです。ちかくでキノコ採りができるなんて嬉しいかぎりです。

### 採ったキノコはどんな味？

採ってきたウスヒラタケはカミさんにみそ汁と天ぷらにしてもらいました。みそ汁は豆腐とヒラタケをいれたのですが、少しキノコの香りが薄くなったようですが、おいしかったです。天ぷらの方はカミさんは、水分が多く油が飛びはねて揚げるのに苦労したといっていました。こちらもおいしいので、秋を満喫といったところです。

さて、カミさんを見ると、みそ汁も天ぷらも口にするようすがありません。ということ、ぼくのキノコの眼力を信用していないということになるのですよ。

そういえば、だいぶ前のこと、富士山へ知り合いとキノコ採りに行った折り、ムキタケのつもりで採ったキノコでみそ汁を作ったのですが、そのキノコがどうもツキヨタケの特徴に似ているので、一緒に行った人には電話して食べるのを止めてもらい、家族も食べるのをやめ、ぼくだけせっかく作ったからと食べた(まあ、実験のつもりもあつたのですが)のです。その結果、数時間後に胸のむかつきから始まり、一晩中「ゲー・ゲー・ピーピー」苦しんだことがあつたのです。

カミさんは、それを忘れずにいるのです。今度も一晩ぼくのようすをうかがって、どうやら大丈夫だと見極めた上で、翌朝の朝食時に、あたたためたみそ汁を口にして一

言「美味しい！」ですと・・・。

## 写真・キノコものがたり

1 ジョギングで見つけたキノコを4日後に、さて、収穫だ。と、いさんできたものの無い！倒木に出ているはずのキノコがどこにもないのです。だれが楽しみをうばったのだ。



2、たしか倒木は2本に折れていたはず、もう1本をさがしたら、反対斜面にあったよ。そこにはウスヒラタケが、あるじゃないか！  
さあ、収穫だぞ、大きさもベストだ。



3、角度を変えてもう一枚。倒木上にある白い粉のようなものは、ウスヒラタケの菌糸です。菌糸があるということは、まだ次のキノコが出てくるしるしだ、楽しみ楽しみ。



1の写真でなにも無かった倒木に、5日後、再びキノコが生えてきた。次の写真も同じ倒木今度は近くから撮ったもの



新しく見つけた立ち枯れのコナラ、こちらはそのまま置いて来年に期待だ。茶色は別のキノコ



ねー、この本読んだ

『のまどくん』 (片山健・作 1575円 文溪堂)



のまどくんはきょうもでかけます。のまどくんは犬が好き。水たまりがあるピチャピチャなかに、はいるのもすき、セミのぬけがらなど見つけたものをつけたものをポケットにみんな入れます。家に帰るころはポケットに宝物がいっぱいです。だから、のまどくん心もうれしい気持ちがいっぱいなのです。小さなこともとって、心が満たされるって大切なことなんだね。

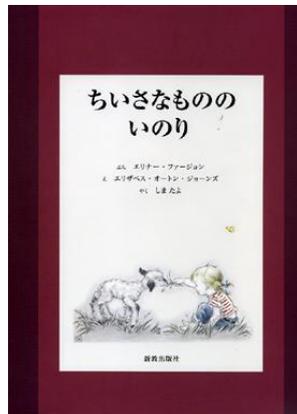


『クリスマスのちいさなめぐりもの』 (アリスン・オートリー・作 上 84円 福音館書店)

クリスマス・アトリー・作 上 条由美子・訳 山内ふじ 江・絵 84円 福音館書店

お母さんの入院で子どももお父さんも何もしないで寝ています。ねこのおかみさんと家ネズミたちが立ち上りました。パイを焼きクリスマスケーキを作り、家を飾ります。そこにサンタが煙突からおりてきて・・・。

『ちいさなもののいのり』 (エリナ・ファージョン・文 エリザベス・オートン・ジョンズ・絵 島多代・訳 1260円 新教出版)



ちいさなもののたちの命を守ってくれるように神さまにお願いし、命の尊さを教えてくれる絵本。この絵本の文は英文と日本文の両方で綴られています。ファイジョンの原作の英文に触れることができるのもいいね。

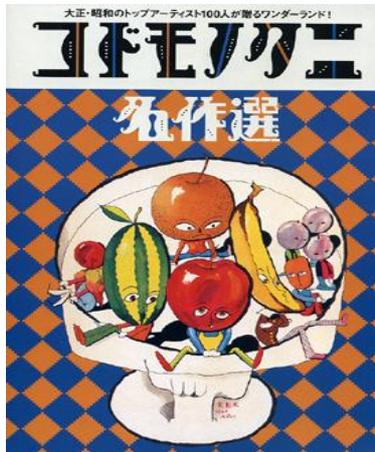
『画集 赤羽末吉の絵本』 (2940円 講談社)



みなさんは、赤羽末吉さんの絵本というものをかきおもちえがくのでしょうか？

この画集は赤羽さんの最初の絵本「かさじぞう」から「スーホの白い馬」などそれぞれの印象深い場面が紹介されています。赤羽さんと関わりがあった人たちの赤羽像が語られてもいます。赤羽さんの絵本を知るのにとてもよい本です。

『コドモノクニ名作選』 (4725円 アシエツト婦人画報社)



「コドモノクニ」は1922年から44年にかけて出版されたこどもの絵雑誌。ここで活躍した作家や詩人・画家な

どの仕事を紹介しながら、この雑誌の歴史的な役割なども明らかにしている。武井武雄・岡本帰一・初山滋などの画家たちや、北原白秋・野口雨情などの童謡詩人たちが甦る。内容は表紙や裏表紙、扉や目次はもちろん本文を含めて、大正時代や、昭和初期のしゃれてモダンな絵などが楽しめます。2分冊ケース入り。もしこの「コドモノクニ」の原本をおもちの方は、お知らせください。購入させていただきます。(ピッコポ古書クラブ)